

図書館資料展示

＜職人尽絵(づくしえ)・職人歌合(うたあわせ)＞

職人を描いた絵は平安時代の扇や絵巻などにも見られますが、中世になって、大工や鍛冶など各種の職人の姿を描いた「職人歌合」がしばしば制作されるようになりました。三十六歌仙の描法や構図をかりて、左右に各種の職人をわけて和歌を付して競わせ、「歌合」の形をとりました。当時は「職人」という言葉は無く、「道々の者」「道の細工」「諸職」などと呼ばれましたが、手工業や加工業などに携わる人々だけでなく芸能者や宗教者なども、貴族の側ら見た民衆の姿として題材にされました。

「東北院職人歌合」(1214年頃)には、和歌や連歌で遊ぶ貴族に対抗して「道々の者」が張り合ったと書かれており、中世最後の作品と言われる「七十一番職人歌合」(1500年頃)には職人の売りことばや会話も書き添えられ、当時の庶民の生活をうかがうことができます。江戸時代になっても「職人歌合」は「職人尽絵」として受け継がれ、「洛中洛外屏風」や「和国諸職絵尽」などにも職人の生活が生き生きと描写されました。

立教大学所蔵の「職人尽之絵」(画帖仕立)には、「七十一番職人歌合」に近い構図の職人図像が描かれています。江戸時代に出版された「江戸職人歌合」(文化5年刊)と共に展示いたします。

※展示解説文等については、下記の参考資料のほか、『平凡社世界大百科事典』などを参考にさせていただきました。



番匠(ばんしょう、大工)と鍛冶職人



扇売りりと烏帽子折り

立教大学図書館

＜展示資料＞

1. 『職人盡之繪』[出版地、出版者不明] 38帖 31.9×42.4cm
2. 『江戸職人歌合』2巻 石原正明著 尾張名古屋：永楽屋東四郎 文化5[1808]序(明治年間後刷り)

＜参考資料＞

1. 『職人歌合』網野善彦著 平凡社ライブラリー 2012
2. 『立教大学所蔵絵巻 解題集』立教大学大学院小峯和明研究室 2012 p38
権香淑「職人尽之絵」
3. 『七十一番職人歌合』(新日本古典文学大系 61) 岩波書店 1993
4. 『職人歌合』岩崎佳枝著 平凡社選書 1987
5. 『喜多院職人盡絵屏風』東出版 1979
6. 『職人尽歌合』北小路健解題・翻刻 1974(延享元年刊の複製)